

笑ってごらん

第 670 号 2020. 1. 15 発行

～今日の格言～

幸せになりたいのなら幸せになることをしようよ。
楽しくなるようなことを本気でやろうよ。

(GACKT)

Fair Play

昨年行われたラグビーワールドカップはとてつもない盛り上がりを見せた。私をはじめ多くの国民が「にわかラグビーファン」となり、覚え立てのルールをのたまいながら熱く TV 観戦した。

これまでラグビーの試合を目にすることは少なく、当然ルールもよくわからない。簡単に言えば歪な形のボールを後ろにパスしながら前に進む競技だ。ディフェンスはタックルしてオフENSEの前進を阻止する。オフENSEはディフェンスの隙を見だし駆け抜ける。その攻防が観ていて何とも面白かった。

日本チームが『One Team』というスローガンを掲げ大活躍したこともあってラグビー熱は一気に高まった。

球技とはいえ、タックルやスクラムという格闘技っぽさを持つラグビーは、チームで肉体と魂をぶつけ合う激しいスポーツだ。だからこそ審判は試合終了を「No Side」と宣言する。試合終了のホイッスルが鳴ったら、試合の結果を忘れて互いの健闘をたたえ合う精神だ。そこには相手を敬う気持ちと勝負に対する潔さが込められている。

ラグビーのノーサイドと同様に、全てのスポー

ツには、勝ち負けの結果ではなく、正々堂々と戦ってこそ価値があるという「Fair Play」の精神がある。

天皇陛下は昨年 10 月 22 日、即位礼正殿の儀で「国民の叡智とたゆみない努力によって、我が国が一層の発展を遂げ、国際社会の友好と平和、人類の福祉と繁栄に寄与することを切に希望いたします。」と述べられた。このお言葉の中にも、世界中の人々が等しく平和で繁栄することを願うというフェアプレーの精神が込められている。



ミライトワ
MIRAITOWA

© Tokyo 2020



ソメイティ
SOMEITY

今年 8 月には東京オリンピックが開催される。国際政治の垣根を越えて、ここでも数多くのフェアプレーが世界中の人々に感動をもたらすだろう。今から楽しみである。



幸福の木

校長室前に背の高い鉢植えの木がある。これが「幸福の木」だ。正式には「ドラセナマツサンゲアナ」というらしい。先週この木が約六年ぶりに花を咲かせた。てっぺんから房のような花弁の塊がニョキニョキと飛び出し、房の基には蜜を蓄えている。

とはいうものの、夕方から夜にかけて花弁が開くので、完全に花が開いている状態を目にするのは難しい。昨日の朝見たら少し枯れているように見えたので、ひよっとしたら 12〜13日にかけて咲ききってしまったのかも知れない。

花が咲くのは珍しい木。

その名から思うに、今年は何かいことがありそうな気がする。